

大阪市立花乃井中学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校は落ち着いた環境のもと、教職員と生徒が協働して多様な教育活動を展開することができている。伝統を継承した新たな学校づくりに取り組んでいる。めざす学校像として、「自主性を育てる」「協調性を培う」「責任感を高める」を掲げ、「安全で安心できる学校づくり」の確立のため、人権尊重の精神を基盤として「規律ある学校づくり」と「生徒集団と個人の健全育成」を図り、成果をあげている。

学力面では、この数年の授業力向上、多様な授業づくりの取り組みの成果が顕著で「全国学力・学習状況調査」「中学生チャレンジテスト」において、全国・大阪府・大阪市平均を上回る結果を残している。英語の学力向上を学校としての重点とし、小学校専科指導や実用英語技能検定（英検）受験を支援する取り組みを行っている。また、図書館活動の活性化および朝の読書タイムを通じて、生徒の多様な読書活動も支援している。

体力面では、「全国体力・運動能力、運動等習慣調査」において、経年比較で一部の種目で数値の向上が見られるが、体力合計得点は、全国・大阪市に追いついていない。

教職員の負担軽減を考慮しつつ、『主体的・対話的で深い学び』を主眼として、学力・体力の向上を目指すとともに、増加傾向にある不登校生徒の背景理解・未然防止・居場所づくりを進展させることが継続課題である。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】**

○令和7年度の全国学力・学習状況調査の「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を85%以上とする（基本的な方向1）。

令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
79.4%	84.3%	78.2%	77.1%

○毎年度末の校内調査において、不登校生徒の割合を、毎年、前年度より減少させる（基本的な方向1）。

令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
8.7%	12.0%	15.2%	13.2%

○毎年度末の校内調査の「あなたは、命や人権の大切さについて考えたことがありますか。」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を毎年95%以上とする（基本的な方向2）。

令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
95.8%	94.6%	93.4%	95.1%

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○全国学力・学習状況調査で毎年全国平均を上回ると共に、年度末の校内調査の「授業に意欲的に取り組んでいますか」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を85%以上とする（基本的な方向4）。

		平均正答率(%)				平均無解答率(%)			
		国語	数学	理科	英語	国語	数学	理科	英語
令和6年度	学校	58	57	-	-	3.4	8.7	-	-
	全国	58.1	52.5	-	-	3.9	11.3	-	-
令和5年度	学校	71	54	-	49	3.9	7.2	-	3.7
	全国	69.8	51.0	-	45.6	4.6	9.6	-	5.7
令和4年度	学校	71	60	51	-	3.1	6.7	2.8	-
	全国	69.0	51.4	49.3	-	4.3	10.8	3.4	-

令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
88.0%	86.2%	87.7%	90.1%

○全国体力・運動能力、運動習慣等調査における調査結果を、前年と比較して男女とも上回る種目を増やす（基本的な方向5）。

年度		握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	持久走 男子 1500m 女子 1000m	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ハンドボール投げ	体力合計点
		(kg)	(回)	(cm)	(点)	(秒)	(回)	(秒)	(cm)	(m)	(点)

【男子】

6	学校	27.41	23.77	37.99	45.88	-	84.35	7.93	201.90	18.38	38.95
	全国	28.95	25.94	44.47	51.51	410.69	78.98	7.99	197.18	20.57	41.86
5	学校	26.14	24.52	44.44	49.01	-	77.31	8.10	195.06	18.52	39.32
	全国	29.02	25.82	44.16	51.22	409.02	78.07	8.01	197.02	20.40	41.32
4	学校	27.05	24.97	42.38	50.11	-	75.88	7.84	201.35	16.71	39.17
	全国	28.99	25.74	43.87	51.05	409.81	78.07	8.06	196.89	20.28	41.04

【女子】

6	学校	21.71	21.19	44.33	40.88	-	50.23	9.19	161.93	10.38	43.27
	全国	23.18	21.56	46.47	45.65	309.02	50.67	8.96	166.32	12.40	47.37
5	学校	20.77	19.97	43.11	41.84	-	46.19	9.18	157.95	10.23	41.91
	全国	23.15	21.62	46.27	45.65	306.26	50.70	8.95	166.34	12.43	47.22
4	学校	21.74	20.56	44.80	44.94	-	49.36	9.01	168.20	10.20	44.27
	全国	23.21	21.67	46.07	45.81	302.89	51.60	8.96	167.04	12.45	47.42

【学びを支える教育環境の充実】

○授業日において、生徒の８割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の６０％以上にする〔ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く〕（基本的な方向６）。

令和５年度	令和６年度
—	0%

○第２期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準２*を満たす教職員の割合を６０％以上にする（基本的な方向７）。

令和５年度	令和６年度
51.06%	59.1%

○年次有給休暇を１０日以上取得する教職員の割合を１００％にする（基本的な方向７）。

令和５年度	令和６年度
85.0%	89.0%

*基準２

- ・１年間の時間外勤務時間が７２０時間を超えない
- ・１か月の時間外勤務時間が４５時間を超える月を１年間に６月まで
- ・１か月の時間外勤務時間が１００時間を超えない
- ・連続する複数月（２か月、３か月、４か月、５か月、６か月）のそれぞれの期間について、時間外勤務時間の１か月当たりの平均が８０時間を超えない

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・全国学力・学習状況調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を85%以上にする（基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現）。

令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
79.4%	84.3%	78.2%	77.1%

- ・年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる（基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現）。

令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
8.7%	12.0%	15.2%	13.3%

- ・年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる（基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現）。

令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
8.3%	14.9%	17.0%	14.5%

- ・年度末の校内調査における「あなたは、命や人権の大切さについて考えたことがありますか」の項目について、「そう思う（どちらかといえばそう思う）」と回答する生徒の割合を94%以上とする（基本的な方向2 豊かな心の育成）。

令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
95.8%	94.6%	93.4%	95.1%

- ・本校独自の取組であるCT（シチズンシップタイム）を通じて、道徳心・社会性の育成に努め、年度末の校内調査における「本校では、CTの時間をとおして「絆」・「命」・「夢」について指導している」の項目について、「そう思う（どちらかといえばそう思う）」と回答する生徒の割合をすべて90%以上とする（基本的な方向2 豊かな心の育成）。

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
「絆」	94.1%	94.2%	95.3%	97.7%
「命」	95.1%	93.9%	95.1%	97.3%
「夢」	90.7%	89.7%	88.6%	90.7%

- ・年度末の校内調査における「あなたは、将来の夢や目標を持っていますか」の項目について、「そう思う（どちらかといえばそう思う）」と回答する生徒の割合を65%以上とする（基本的な方向2 豊かな心の育成）。

令和4年度	令和5年度	令和6年度
63.1%	60.6%	65.4%

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・全国学力・学習状況調査の「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を45%以上にする(基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上)。

令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
39.1%	41.9%	29.3%	25.3%

- ・中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.5ポイント向上させる(基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上)。

	1年(78期生)		2年(77期生)		3年(76期生)	
	国語	数学	国語	数学	国語	数学
令和6年度	1.03	1.03	1.12	1.34	1.02	1.12
令和5年度			1.14	1.26	1.06	1.14
令和4年度					0.99	1.09

- ・大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を70%以上にする(基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上)。

令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
71.2%	69.4%	64.9%	74.38%

- ・年度末の校内調査における「本校では、家庭学習の定着に取り組んでいる」の項目について「そう思う(どちらかといえばそう思う)」と回答する生徒の割合を88%以上とする。(基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上)

令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
88.2%	88.8%	87.7%	76.1%

- ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を48%以上にする(基本的な方向5 健やかな体の育成)。

令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
52.1%	45.8%	47.3%	58.2%

【学びを支える教育環境の充実】

- ・授業日において、生徒の８割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の５０％以上にする〔ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く〕（基本的な方向６ 教育 DX〔デジタルトランスフォーメーション〕の推進）。

令和５年度	令和６年度
—	0%

- ・第２期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準２を満たす教職員の割合を５５％以上にする（基本的な方向７ 人材の確保・育成としなやかな組織づくり）。

令和５年度	令和６年度
51.06%	59.1%

- ・年次有給休暇を１０日以上取得する教職員の割合を９０％以上にする（基本的な方向７ 人材の確保・育成としなやかな組織づくり）。

令和４年度	令和５年度	令和６年度
70.0%	85.0%	89.0%

- ・本市調査における、生徒１人当たりの学校図書年間貸出冊数を前年度より１冊増加させる。（基本的な方向８ 生涯学習の支援）

令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度
1.6冊	1.8冊	1.3冊	1.0冊

3 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

引き続き、落ち着いた学習環境を維持している。

スペシャルサポートルーム(SSR)モデル設置の効果により、不登校生徒に関する統計上の数値は改善しているが、不登校生徒が多い状況である。関係者の負担軽減を考慮しつつ、背景理解・未然防止・学びの場確保にむけた取り組みを引き続き進展させる必要がある。

本校独自の CT(シチズンシップタイム)は、所期の目的を達成している。これまでの取り組みを総括したうえで、実施体制について検討が必要である。

指標の一つである「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」で、最も肯定的な回答の割合が向上するよう、取り組みを継続していく(令和 6 年度も、全国・大阪市平均を下回っている)。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全国学力・学習状況調査、中学生チャレンジテスト等の結果において、全国や大阪市平均を概ね上回る結果を残した。

家庭学習の定着にむけて、各教科で新たな取り組みをすすめているが、家庭学習プリントを取りやめたことで、学校アンケートにおける家庭学習の定着に関する回答では、肯定的な回答が減少した。「自分で」「計画的に」という視点で、学習に意欲的になるよう、生徒への意識付け、手法の改善に引き続き取り組む必要がある。

全国体力・運動能力、運動等習慣調査では、男子が 4 種目で、女子が 6 種目と体力合計点で前年を上回った。体力合計点は、全国・大阪市平均を下回ったが、男子のシャトルラン、50m 走、立ち幅とびは、全国・大阪市平均を上回った。1週間の運動時間が 60 分未満の生徒の割合は、全国平均を上回っているが、運動やスポーツが好き・大切と考える生徒の割合では差はない。施設面で不利な点はあるが、すすんで運動しようとする意欲を高める取り組みが引き続き必要である。

【学びを支える教育環境の充実】

大阪市として学習者端末のさらなる活用を目指す中で、令和 6 年度より端末の活用状況にかかる指標が変更された。本校として活用場面の拡大を図ってきたが、目標は達成できなかった。令和 7 年度 10 月以降に学習者用端末が更新される(Chrome 端末に)。

教職員の長時間勤務は、年々改善されているが、第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」の達成目標とはかなりの差がある。行事、会議、業務の改善に引き続き取り組んでいく。

大阪市立花乃井中学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標					達成 状況
【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】					
・全国学力・学習状況調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 85 % 以上にする（基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現）。					
	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	
	79.4%	84.3%	78.2%	77.1%	
・年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる（基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現）。					
	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	
	8.7%	12.0%	15.2%	13.2%	
・年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる（基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現）。					
	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	
	8.3%	14.9%	17.0%	14.5%	
・年度末の校内調査における「あなたは、命や人権の大切さについて考えたことがありますか」の項目について、「そう思う（どちらかといえばそう思う）」と回答する生徒の割合を 94 % 以上とする（基本的な方向 2 豊かな心の育成）。					B
	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	
	95.8%	94.6%	93.4%	95.1%	
・本校独自の取組である C T (シチズンシップタイム)を通じて、道徳心・社会性の育成に努め、年度末の校内調査における「本校では、C Tの時間をとおして「絆」・「命」・「夢」について指導している」の項目について、「そう思う（どちらかといえばそう思う）」と回答する生徒の割合をすべて 90 % 以上とする（基本的な方向 2 豊かな心の育成）。					
	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	
「絆」	94.1%	94.2%	95.3%	97.7%	
「命」	95.1%	93.9%	95.1%	97.3%	
「夢」	90.7%	89.7%	88.6%	90.7%	

<p>・年度末の校内調査における「あなたは、将来の夢や目標を持っていますか」の項目について、「そう思う（どちらかといえばそう思う）」と回答する生徒の割合を65%以上とする（基本的な方向2 豊かな心の育成）。</p>			
令和4年度	令和5年度	令和6年度	
63.1%	60.6%	65.4%	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
<p>〈生活指導部〉 取組内容①【基本的な方向1 安心安全な教育環境の実現】 いじめや不登校の未然防止・早期発見および早期対応に努める。</p>		B
<p>指標 「こころの天気」を1日1回以上入力する習慣を生徒に身につけさせる。</p>		
<p>〈生活指導部〉 取組内容②【基本的な方向1 安心安全な教育環境の実現】 児童虐待等のSOSキャッチを早期支援につなげるため、関係機関との連携を密にする。</p>		B
<p>指標 SC・SSW、子どもサポートネット等と連携し、学期に1回以上、スクリーニング会議Ⅱを実施する。</p>		
<p>〈CT委員会：B〉〈1学年：A〉〈2学年：B〉〈3学年：B〉 取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】 CT(シチズンシップタイム)の取り組みを通じて、人権教育を推進する。</p>		B
<p>指標 各学年の年間計画に従って、人権教育を実施する。</p>		
<p>〈進路委員会：B〉〈1学年：B〉〈2学年：B〉〈3学年：B〉 取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成】 キャリア教育を推進し、生徒の自己実現を支援する。</p>		B
<p>指標 各学年の年間計画に従って、キャリア教育(職業体験・職業講話・高校授業体験等)を実施する。</p>		
<p>〈校務運営部：B〉〈1学年：A〉〈2学年：B〉〈3学年：A〉 取組内容⑤【基本的な方向2 豊かな心の育成】 泊行事等の学校行事をとおして「絆」を深めるとともに、芸術鑑賞等を実施して豊かな感性と表現力を育成する。</p>		A
<p>指標 年間計画に従って、学校行事や芸術鑑賞を実施する。</p>		

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容① いじめや不登校の未然防止・早期発見および早期対応に努める。

取組内容② 児童虐待等のＳＯＳキャッチを早期支援につなげるため、関係機関との連携を密にする。

〈生活指導部〉

・SSRをほぼ毎日7～10名程度の生徒が利用、また週に数回利用の生徒も増加している。統計上、不登校の数は減少しているが、不登校生徒の数は非常に多い。

・「こころの天気」の生徒の入力は十分とは言えない。

・SSW・SC、子どもサポートネット等関係諸機関との連携は密に取ることができた。

取組内容③ CT(シチズンシップタイム)の取り組みを通じて、人権教育を推進する。

〈CT委員会〉

・様々な教育的ニーズが増えている状況下で、各学年で実施する人権教育として、生命の大切さや多様性、外国にルーツをもつ人への支援などについての教育を実施している。

〈1学年〉

・仲間作り、学級・学年の集団作り、防災教育等に取り組んだ。

〈2学年〉

・学年全体で道徳の授業を計画立てて行っている。

〈3学年〉

・道徳については計画的に実施することができた。

取組内容④ キャリア教育を推進し、生徒の自己実現を支援する。

〈進路委員会〉

・アンケート項目「あなたは、将来の夢や目標を持っていますか」で、年度目標である数値を「+1.5%」上回った。3年生は高校授業体験、自己分析(自己理解)、2年生は職業体験を実施。1年生は職業講話を今後実施予定である。学年別では1,3年生は65%を超えているが、2年生は目標値を大きく下回まる53.7%であった。

〈1学年〉

・総合的読解力の時間において、自己実現について学んだ。

〈2学年〉

・11月7日(木)、8日(金)の職場体験に向けて、夏休みの登校日にキャリア教育のビデオを見たりして、自分の将来について考える機会を設けている。

〈3学年〉

・キャリア教育については計画的に実施することができた。進路決定まで学年全体で同じ方向を向き、感動できる卒業式になることを期待したい。

取組内容⑤ 泊行事等の学校行事をとおして「絆」を深めるとともに、芸術鑑賞等を実施して豊かな感性と表現力を育成する。

〈校務運営部〉

・修学旅行・一泊移住ともに計画通り実施できた。また、絆を深める活動として、2年生校外学習の実施も1学期中にあり、一定の成果を収めている。芸術鑑賞会においては、12月実施予定である。しかし、これらの行事以外にも、総合的読解力の時間の確保や取り組みがたくさんあり、スケジュール的にも厳しい上、職員の負担も多い。中間評価に加えて、予定通り、芸術鑑賞会の実施ができた。

〈1学年〉

・一泊移住を通して、集団行動での自覚や責任・学年での連帯感等を体感できた。

〈2 学年〉

・6月には京都に校外学習で行った。班で計画を立て、京都市内を散策した。また、京都においては、SDGs の学習をも行った。

〈3 学年〉

・修学旅行でクラス・学年が団結できたことで、体育大会や合唱コンクールではさらにクラスの絆を深めることができた取り組みになった。

次年度への改善点

取組内容① いじめや不登校の未然防止・早期発見および早期対応に努める。

取組内容② 児童虐待等の SOS キャッチを早期支援につなげるため、関係機関との連携を密にする。

〈生活指導部〉

・SSR の利用から、ステップアップして教室に入っている学習につながっていないのが現状である。また SSR の活用について、職員間の共通認識を図る必要がある。

取組内容③ C T (シチズンシップタイム) の取り組みを通じて、人権教育を推進する。

取組内容④ キャリア教育を推進し、生徒の自己実現を支援する。

取組内容⑤ 泊行事等の学校行事をととして「絆」を深めるとともに、芸術鑑賞等を実施して豊かな感性と表現力を育成する。

〈CT 委員会〉

・限られた総合・特活の取り組み時間のなかで、総合的読解力の取り組みなどに加えて、人権に関する教育を十分に実施できるよう、取り組み内容を継続的に精査する必要がある。また、これまでの平和学習に例えられるような、3年間かけて積み上げる人権に関するテーマを学校全体で共有するなど、人権教育の核となる学習内容を検討する。

〈進路委員会〉

・前年度は1年生(62.1%)、2年生(57.8%)、3年生(48.7%)だったので、今年度は1, 3年生については前年度を大きく超えたが、2年生は大きく下がった。職業体験を経て、職業理解等のキャリア教育を行う必要があるかもしれない。

〈校務運営部〉

・来年度は万博を控え、宿泊行事との調整が課題であるが、柔軟に対応する必要がある。

〈2 学年〉

・予定通りにいかないことや下調べ不足の点も見られたので、修学旅行での班行動では改善していく。

〈3 学年〉

・年間計画をしっかりと立て、月々の計画を早めに立てて余裕を持って実施していきたい。

大阪市立花乃井中学校 令和 5 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標					達成 状況		
【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】							
・全国学力・学習状況調査の「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 45% 以上にする (基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上)。							
令和 3 年度		令和 4 年度		令和 5 年度		令和 6 年度	
39.1%		41.9%		29.3%		25.3%	
・中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.5 ポイント向上させる (基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上)。							
	1 年 (78 期生)		2 年 (77 期生)		3 年 (76 期生)		
	国語	数学	国語	数学	国語	数学	
令和 6 年度	1.03	1.03	1.12	1.34	1.02	1.12	
令和 5 年度			1.14	1.26	1.06	1.14	
令和 4 年度					0.99	1.09	
・大阪市英語力調査における C E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合 (4 技能) を 70% 以上にする (基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上)。							
令和 3 年度		令和 4 年度		令和 5 年度		令和 6 年度	
71.2%		69.4%		64.9%		74.4%	
・令和 5 年度の学校評価アンケートで「家庭学習の定着に取り組んでいる」の項目について「そう思う (どちらかといえばそう思う)」と回答する生徒の割合を 88% 以上とする。 (基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上)							
令和 3 年度		令和 4 年度		令和 5 年度		令和 6 年度	
88.2%		88.8%		87.7%		76.1%	
・全国体力・運動能力、運動習慣等調査「運動 (体を動かす遊びを含む) やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を 48% 以上にする (基本的な方向 5 健やかな体の育成)。							
令和 3 年度		令和 4 年度		令和 5 年度		令和 6 年度	
52.1%		45.8%		47.3%		58.2%	

B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>〈校務運営部：B〉〈ICT委員会：B〉〈国語科：B〉〈数学科：B〉〈理科：B〉 〈社会科：B〉〈音楽科：A〉〈美術科：B〉〈保健体育科：B〉〈技術家庭科：B〉 〈英語科：B〉〈特別支援教育委員会：B〉</p> <p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 生徒が主体的に学習に取り組める指導内容、指導方法を工夫し、自主学習習慣の定着につなげる。</p> <hr/> <p>指標 日々の授業のなかで、「話し合い（聞き合い）」する場面を増やす。</p>	B
<p>〈教頭：B〉〈校務運営部：B〉</p> <p>取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 学校元気アップ事業を通して、地域の教育力を広く取り入れ、放課後学習会や家庭での学習の定着を図る。</p> <hr/> <p>指標 「放課後学習会」「テスト前自主学習」等を実施するとともに、各種コンクールや検定試験への参加を促す。</p>	B
<p>〈保健体育科〉</p> <p>取組内容③【基本的な方向5 健やかな体の育成】 体育的活動を充実させる。</p> <hr/> <p>指標 体育の授業時等に体操・筋力トレーニングやストレッチを正確に実施させ、基礎体力の定着を図る。</p>	B

取組内容① 生徒が主体的に学習に取り組める指導内容、指導方法を工夫し、自主学習習慣の定着につなげる。

取組内容③ 体育的活動を充実させる。

〈校務運営部〉

・今年度より、家庭学習プリントがなくなり、各教科で工夫しながら帯授業や小テストの実施や課題・宿題の工夫を各教科で行っている。また、グループワークにおいては、各教科に加えて、総合や特別活動で目的に応じた内容で実施できている。

〈ICT 委員会〉

・「話し合い(聞き合い)」する場面のツールとして学習者用端末を活用したグループ学習や考えの共有が各教科で工夫されて取り組めた。具体的には、Teams 内でのパワーポイントの共同編集・ホワイトボード機能が活用された。また、自主学習習慣の定着としてデジタルドリル「ナビマ」・「まなびボックス」、Teams の音読機能、Kafoot!の活用も各教科で進んだ。

〈国語科〉

・授業内で各単元に沿った話し合い活動を取り入れ、生徒が主体的に自分の考えを主張する場面や相手の意見を受けて考えを深める場面を意識して作っている。少しずつではあるが、主体的に発言できる生徒が増えてきた。また全学年共通の漢字プリントを課題として出し、日々の学習習慣の定着に努めているため、漢字の正答率は上がっている。

・「総合的読解力」では全学年、国語科主導で授業展開を考え、進めていった。

〈数学科〉

・デジタルドリルやプリントを活用し、生徒が自ら考え学べるようにしている。話し合い(聞き合い)の場面をさらに設定できるよう、単元に応じて計画する。

・定期的に課題を出し、家庭学習を促している。

〈理科〉

・実験結果を共有して、なぜそのような結果になったのか、なぜ予想と違っていたのかなどをお互いに話し合い(聞き合い)の場面を増やすことができた。また、課題を設定し、その答えをグループで話し合い、その後、クラス全体で共有することができた。

〈社会科〉

・「話し合い(聞き合い)」をする場面は、必要に応じて取り入れている。単元によっては、課題設定をしづらい単元もあるので、単元ごとに回数に差があった。また、自分の意見を踏まえて話し合いを行う課題設定は難しい。

・自分の意見を持つことができるように、各単元ごとに「ふりかえり」のプリントを作成し、知識の定着だけでなく、多面的に物事をみることができるよう課題設定をしている。

〈音楽科〉

・日々の合唱や器楽の授業で、生徒たち自ら音楽を表現できるよう、パートリーダーを決めお互いが教えあい、切磋琢磨しあえるよう指導している。

〈美術科〉

・何のために美術を学ぶのか、その課題にはどういう効果があるのかを明確にしている。ICT を用いた授業で、実技が苦手な生徒もハードルを下げて取り組める課題を模索している。

・主体的に学べるよう、自分で自分の主題を決めさせ、同じような技法の説明などは PC でみられるように共通の資料を用意している。

〈保健体育科〉

・毎回の授業でトレーニングや柔軟運動等を取り入れるようにしてきた。授業でしか運動の機会がない生徒が増えてきているので、基礎体力の定着のために必要性を感じた。

〈技術家庭科〉

- ・ワークシートや補助教材を利用し、教科書と合わせて個人でも学習しやすいような授業作りに取り組んでいる。家庭学習も十分に行えるよう、課題等の設定も計画していく。
- ・実習等ではペア学習を基本として、協同して作業を行い、話し合いの場を増やせるように取り組んでいる。

〈英語科〉

- ・「話し合い(聞き合い)」する場面は、必要に応じて、取り入れている。英語という教科性からすると、この指標は取組内容をはかるものとして適さない。代わりに、各学年、習熟度別少人数授業を実施することで、生徒が主体的に学習に取り組めるように努めている。

〈特別支援教育委員会〉

- ・抽出の授業や放課後指導の際に、本人に合わせた指導として、ICT 機器を使った個別指導、1 つの教材を使つての教え合いの機会を作り、主体的に取り組める場面を設定している。また学年に関係なく抽出授業を行っているので、今後学年を超えて授業の中で話し合いの場面を増やしていく。

取組内容② 学校元気アップ事業を通して、地域の教育力を広く取り入れ、放課後学習会や家庭での学習の定着を図る。

〈教頭〉

- ・元気アップの放課後学習会の参加者人数は 2 月末までの延べ人数で、1 年生が 138 名、2 年生が 222 名、3 年生が 90 名で、合計 450 名だった。昨年度の同時期より約 40 名多い。また、学校評価アンケートの「家庭学習の定着に取り組んでいる」の項目で、肯定的な回答の割合が 73.7%となり、目標を下回った。今年度は、元気アップコーディネーターによる「家庭学習プリント」を作成せずに取り組ませたこともあり、肯定的な割合が低くなることはある程度、想定内であった。各種コンクールや検定試験への参加を呼びかけて、少しではあるが、成果があった。これを契機として、次年度も取り組ませていきたい。

〈校務運営部〉

- ・今年度の新たな取り組みとして、チャレンジ応募と称して、生徒が主体的に各種コンクールに参加できる仕組みを整えた。

次年度への改善点

取組内容① 生徒が主体的に学習に取り組める指導内容、指導方法を工夫し、自主学習習慣の定着につなげる。

取組内容③ 体育的活動を充実させる。

〈ICT 委員会〉

- ・ICT 委員会として各教科の取り組みの情報発信や情報共有方法を検討している。

〈国語科〉

- ・生徒が自分の考えを持ち、的確に相手にそれを伝えるためにも読解力の向上は必要である。読書活動だけではなく、各学年ごとに取り組む「総合的読解力」の授業も含め、文章の読み方をより丁寧に教えていくことが課題である。

〈数学科〉

- ・グループワーク等をもう少し増やして、学び合いの時間を増やしていく

〈理科〉

- ・実験道具を増やす。1 クラスあたりの生徒の人数が増えているため、実験器具が足りない、もしくは、故障しているものがあるので来年度は補充する。また、同じ生徒が話す場面が多いので様々な生徒が安心して発言できる環境にしていく。

〈社会科〉

- ・宿題には取り組んでいるが、自主学習の定着にはまだ至っていないため、自主学習できるような課題設定を考える必要がある。
- ・自分の意見を考え、発表する場として単元によってはパワーポイントの作成などを行っているが、そこに時間を割くと授業進度に影響が出てしまうため、「話し合い」や発表の活動を増やすためにどのように時間を組んでいくかが課題である。

〈音楽科〉

- ・鑑賞の分野でもお互いの意見などを交流できる機会をふやす。

〈美術科〉

- ・一人一台端末を用いた授業を精査し、各学年で体系的に取り組ませたい。他教科との連携を取りたい。

〈保健体育科〉

- ・まだまだ運動習慣がない生徒が多いので、体力向上と心身の健康のために体育授業に興味関心を持たせるように進めていきたい。

〈技術家庭科〉

- ・個別に学習内容の定着率に合わせた課題が取り組めるように難易度の高い課題等も設定していく。

〈英語科〉

- ・引き続き、習熟度別少人数授業を効果的に実施する。

〈特別支援教育委員会〉

- ・学年に関係なく抽出授業を行うことで、学年を超えてのコミュニケーションがとれ、交流する機会が増えたのはよかった。ただ ICT 機器を使った授業があまりできていないので、来年度は ICT 機器を活用し、主体的に取り組める授業を考えていく必要がある。また来年度から自校通級が開設されるので支援学級と通級が連携しながら運営していく。

取組内容② 学校元気アップ事業を通して、地域の教育力を広く取り入れ、放課後学習会や家庭での学習の定着を図る。

〈教頭〉

- ・次年度も引き続き、コーディネーターやサポーターの地域の教育力を活かして、教科担当者と元気アップ地域本部事業が連携して、自主学習・学力補充・家庭学習のサポートに取り組んでいく。

〈校務運営部〉

- ・家庭学習の評価が前年度より下降している。生徒への働きかけに工夫が必要である。

大阪市立花乃井中学校 令和 5 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標		達成 状況																						
<p>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>・授業日において、生徒の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50 % 以上にする〔ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く〕（基本的な方向 6 教育 DX〔デジタルトランスフォーメーション〕の推進）。</p> <table><tr><th>令和 5 年度</th><th>令和 6 年度</th></tr><tr><td>—</td><td>0%</td></tr></table> <p>・第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 2 を満たす教職員の割合を 55 % 以上にする（基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり）。</p> <table><tr><th>令和 5 年度</th><th>令和 6 年度</th></tr><tr><td>51.06%</td><td>59.1%</td></tr></table> <p>・年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 90 % 以上にする（基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり）。</p> <table><tr><th>令和 4 年度</th><th>令和 5 年度</th><th>令和 6 年度</th></tr><tr><td>70.0%</td><td>85.0%</td><td>89.0%</td></tr></table> <p>・本市調査における、生徒 1 人当たりの学校図書年間貸出冊数を前年度より 1 冊増加させる（基本的な方向 8 生涯学習の支援）。</p> <table><tr><th>令和 3 年度</th><th>令和 4 年度</th><th>令和 5 年度</th><th>令和 6 年度</th></tr><tr><td>1.6 冊</td><td>1.8 冊</td><td>1.3 冊</td><td>1.0 冊</td></tr></table>		令和 5 年度	令和 6 年度	—	0%	令和 5 年度	令和 6 年度	51.06%	59.1%	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	70.0%	85.0%	89.0%	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	1.6 冊	1.8 冊	1.3 冊	1.0 冊	C
令和 5 年度	令和 6 年度																							
—	0%																							
令和 5 年度	令和 6 年度																							
51.06%	59.1%																							
令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度																						
70.0%	85.0%	89.0%																						
令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度																					
1.6 冊	1.8 冊	1.3 冊	1.0 冊																					

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>〈ICT 委員会〉</p> <p>取組内容①【基本的な方向 6 教育 DX (デジタルトランスフォーメーション) の推進】 ICT を活用した教育を推進する。</p> <hr/> <p>指標 日々の授業、家庭学習のなかで、「学習者用端末を操作」する場面を増やす。</p>	A
<p>〈教頭〉</p> <p>取組内容②【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 教職員の業務軽減を図り、働き方改革を推進する。</p> <hr/> <p>指標 校務支援システムを活用し、会議時間を短縮する。</p>	B

<p>〈国語科〉</p> <p>取組内容③【基本的な方向 8 生涯学習の支援】 生徒の読書活動を充実させる。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>朝の読書タイム、本の紹介（読書の木、ビブリオバトル）など、生徒が主体的に活動する場を保障する。</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>取組内容① ICTを活用した教育を推進する。</p> <p>〈ICT 委員会〉</p> <p>・今年度はパソコンの持ち帰りを開始したので、家庭でも「学習者用端末を操作」する場面がでてきた。授業内での学習者用端末の活用は年々進んでおり、具体的には、Kafoot!・Froms を使った授業アンケート・解答を Teams 上に公開・デジタルドリル「ナビマ」「まなびボックス」・スクールライフノート機能（心の天気等）・調べ学習としてのネット検索などが挙げられる。</p> <p>取組内容② 教職員の業務軽減を図り、働き方改革を推進する。</p> <p>〈教頭〉</p> <p>・欠席連絡等アプリ「ミマモルメ」は、ほとんどの保護者が登録していて、始業前の教職員の電話連絡業務が軽減されている。また、メール機能も有効活用できている。業務軽減に関しては、校務運営部が先導し、職員会議をはじめ、会議の時間や回数の縮減が少しずつ浸透している。</p> <p>取組内容③ 生徒の読書活動を充実させる。</p> <p>〈国語科〉</p> <p>・1学期から2学期にかけてビブリオバトルを行い、生徒が主体的となった活動を行うことができた。しかし、読書の木の取り組みや朝読書を中心に本に触れる機会を増やしてはいるが、図書室の利用人数は昨年度と比較してもあまり伸びていない。</p>	
次年度への改善点	
<p>取組内容① ICTを活用した教育を推進する。</p> <p>〈ICT 委員会〉</p> <p>・ICT 委員会として各教科の取り組みの情報発信や提案方法を検討している。</p> <p>取組内容② 教職員の業務軽減を図り、働き方改革を推進する。</p> <p>〈教頭〉</p> <p>・欠席連絡等アプリ「ミマモルメ」について、健康観察や遅刻・欠席等の連絡とは異なる内容で、繊細な内容を備考欄に入力する保護者が何名かいる。そのような場合は、直接学校に電話連絡等をしてもらうように、理解してもらう必要がある。</p> <p>取組内容③ 生徒の読書活動を充実させる。</p> <p>〈国語科〉</p> <p>・引き続きビブリオバトルなどの生徒が主体となった活動は続けていく。図書室の利用をより活発にするために、図書委員を中心に図書室にあるおすすめ本の紹介や声掛けをする機会を増やしていきたい。また古本フェスティバルなどの図書室の取り組みを生徒に周知させるための工夫にも取り組んでいきたい。</p>	